

美しいカラーによみがえるあの感動！ 最新映画化で贈る不朽の愛のロマン！

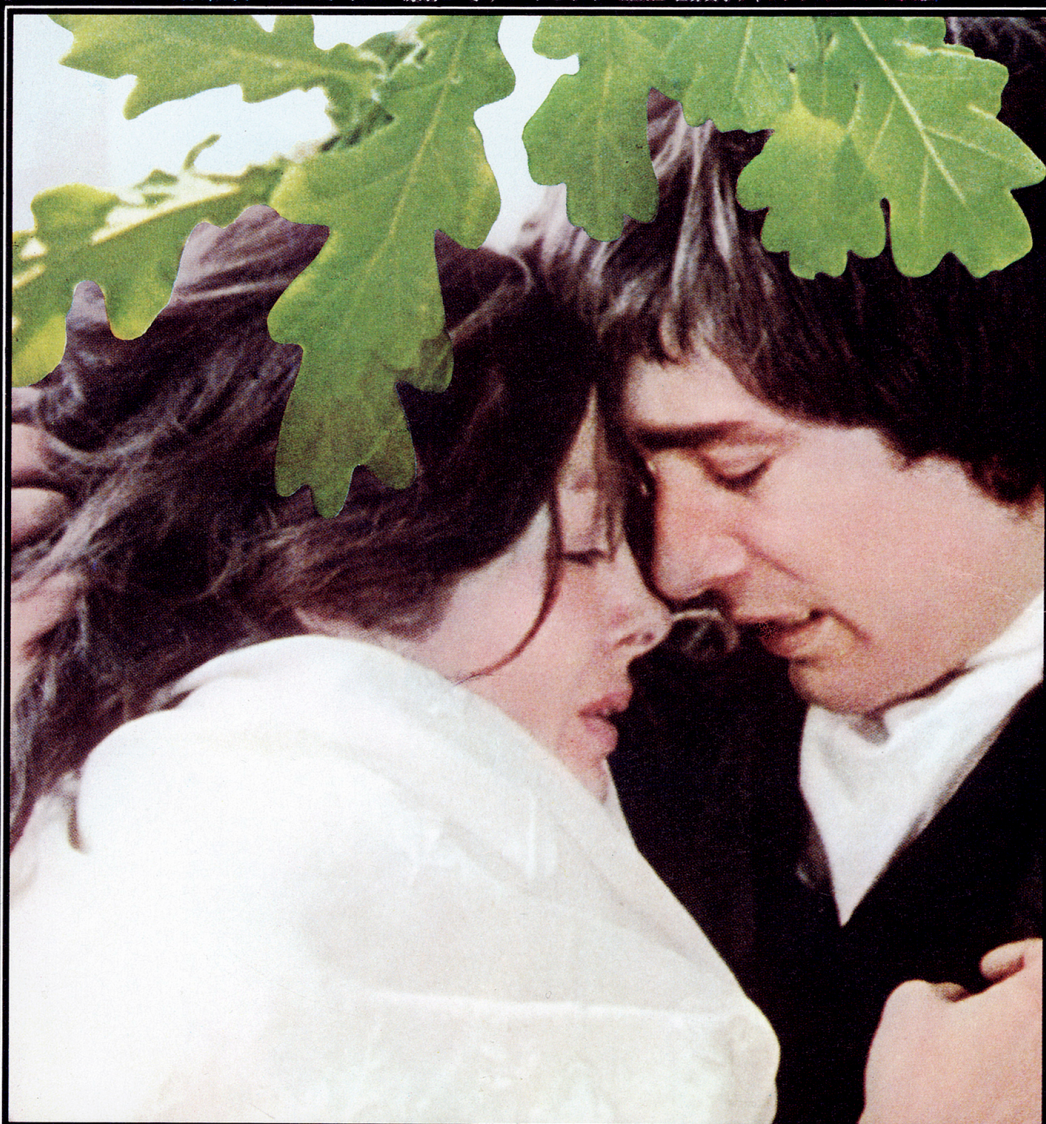
嵐が丘



カラー作品

東和提供

ティモシー・ダルトン/アンナ・カルダー・マーシャル/イアン・オーギルビー ■ 監督ロバート・フュースト
音楽 ミシェル・ルグラン ■ 原作 エミリー・ブロンテ (講談社・世界文学ライブラリー) ■ アメリカ映画



ANNA CALDER-MARSHALL TIMOTHY DALTON in a film of ROBERT FUEST

Wuthering Heights

based on the famous novel by EMILY BRONTE

近日ロードショー ■ 有楽町 **スバル座** (212) 2826
そごう前

★かいつつ

愛をこえた「愛」——それは、世界文学史上、ひとときわ異彩を放つ英國の女流作家エミリー・ブロンテ不朽の名作「嵐が丘」に描かれたキャシーとヒースクリフとの愛、をいかに描かないだろう。
 文豪サマセット・モームが世界十大小説のひとつに数え、永遠のベストセラーとして、いまでも愛読されているこのロマンは、かつて、ローレンス・オリビエ（ヒースクリフ）、マール・オベロン（キャシー）、そして名匠ウィリアム・ワイラーの演出で映画化されて、わが国でも大ヒットしたが、その感動がこんどは美しいカラーによって、まったく新しくよみがえった。もちろん、スタップも本場英國の映画・演劇界から選ばぬかれたメンバーをそろえ、見ごたえのある愛の名作となっている。

北イングランド、ヨークシャー地方特有のヒースの花が咲きにおう野原の一角に、ひとりの若い女の葬儀がしめやかにとり行なわれていた。黒い参列者の一群から離れてただひとり、このようすをじっと見つめる馬上の男がいた。彼の名はヒースクリフ。埋葬された女とは決して消え去ることのない過去があった。

……もう何年も前のことだった。ヒースクリフは幼い頃から好きだったキャシーと永遠の愛を誓い合ったのだった。
 孤児だったヒースクリフは幼い頃、キャシーの父アーンショー氏に拾われ、「嵐が丘」と呼ばれる氏の館で家族同様に育てられたのだった。キャシーとは特に気が合い、いつも一緒だった。

そんな生活も父の死とともに一変した。新しい「嵐が丘」の主人となったキャシーの兄ヒンドリーは父に愛されていたヒースクリフを憎み、下男同様に扱ったが、そんなつらさもキャシーの愛で報われるのだった。ある日、ふとしたことで、キャシーは近隣に住むリントン家のエドガーを知り、その優雅なハンサムぶりに心を奪われた。そしてエドガーのブロポーズ。粗野なヒースクリフと対照的なエドガーに年頃の娘らしい気持が動いたとしても当然だった。もちろん、キャシーは富裕なエドガーの金を利用して、ヒースクリフをヒンドリーから救ってやるつもりだったのだが、そんな配慮を知るはずもないヒースクリフは絶望と怒りのあまり、「嵐が丘」を去った。復讐を誓って……

三年後。妻に死なれたヒンドリーの生活は荒みきつていた。その彼の前にヒースクリフは再び現われた。立派な紳士の姿で。彼は巧みにヒンドリーの身代を手中に取めると、エドガーの妹イザベラに近づき、これを妻にしろ。キャシーを愛するがゆえの憎しみからとはいえ、あまりに激しく悲しいヒースクリフの怒りだった。
 彼の激情の渦の中でキャシーは身ごもったまま、病いに倒れ、高熱に浮かされながら、ヒースクリフの名を呼んだ……

キャシー役のアナ・カルダー・マーシャルは英國の舞台出身で映画・舞台・TVに活躍中の新人。ヒースクリフになるティモシー・ダルトンは「冬のライオン」で卓抜した演技をみせた英國の舞台出身の新人。最新作に「クロムウェル」がある。また「ワテロー」の新人イアン・オーギルビーといったフレッシュなスターが競演、これを助けて、ハリイ・アンドリュース、ヒュー・グリフィスらのベテラン、新進演技陣が力演している。
 監督は俊英ロバート・フュースト。原作の舞台であるヨークシャー・ロケがすばらしい迫力を生んでいる。音楽は「シエルブルーの雨傘」のミシェル・ルグラン。



嵐が丘

カラー作品★東和提供 TOWA アメリカ映画

★私を許して、あなたも許すから

「嵐が丘」にみる愛のかたち——
 (映画評論家) 林 冬子
 「ヒースクリフ、私を捨てないでね」と数願するキャシー。その顔を腕に抱きながら、「もちろんだ。君が裏切らなければね」と遠くにつぶやくように言うヒースクリフ。
 切れ長の、だが一種の狂気を含んだ彼(ティモシー・ダルトン扮)の眼は、やがて訪れる誓いの破れを予感するかのようになり、悲しみさえたたえている。

ヒースクリフとキャシー、ふたりは兄妹のように育った。ヒースの花が咲き乱れる丘の上の岩蔭が、幼い恋人たちの隠れ場所だった。だが年頃になると、キャシーは女らしい夢にაცოგれた。ゆたかな生活、教養、優雅なマナー——それを身につけ、求婚するハンサムな青年弁護士。薄汚れて、反抗することしか知らないヒースクリフが、何とわびしく見えることか。

エミリー・ブロンテの「嵐が丘」には、十九世紀の粗末な牧師館の二階で、せつせと空想に筆を走らせる作家の吐息が、いまにも聞えてきそうな箇所にあふれている。シャロット、アンのプロンテ三人姉妹の真中で、いつも地味な衣服に体をつつま、ほとんど話もせず、冷たく、孤独な日常を送ったエミリーは、その胸に秘めた想いを、ある時はヒースクリフの狂気に、ある時はキャシーの本能的な無邪気さに託して、「嵐が丘」の世界をつくりあげた。その意味では、作家エミリーは中性であって、彼女の中の荒々しい衝動は、ヒースクリフという肉体を通じて、鋭くキャシーを通り抜ける。

運命のなす糸にあやつられるふたり。彼らを結びつけずにはいられないエミリーは、やがてヒースクリフを堂々たる紳士に仕立てあげ、復讐の鬼となって、キャシーと再会させる。出産による死期を感じとるキャシーは、ヒースクリフを抱きしめて、「私を許して。私もあなたを許すから」と告白する。
 愛におけるこの自信と平等性。シャロットの「ジェーン・エア」にも見られたこの共通の思想は、最近の「愛の路線」映画に見られる、優しく甘美なものとは異質の激しさで、私を圧倒した。

★スタッフ

- 製作: サミュエル・Z・アークコフ
- 監督: ジェームス・H・ニコルソン
- 脚本: ロバート・フュースト
- 原作: エミリック・テイラー
- 音楽: ミシェル・ルグラン
- 美術: ジョン・コクイロン
- 撮影: フリップ・ハリソン
- 編集: ジョーン・コクイロン
- 衣裳: フリップ・ハリソン
- ★キャスト
- キャシー(キャサリン)・アーンショー
- ヒースクリフ……………アナ・カルダー・マーシャル
- エドガー・リントン……………ティモシー・ダルトン
- ネリー……………イアン・オーギルビー
- イザベラ・リントン……………ジュディ・コーンウェル
- アーンショー氏……………ヒラリー・ドワイヤス
- ヒンドリー・アーンショー……………ジュリアン・グロバース
- ドクター・ケネス……………ヒュー・グリフィス